



■発行年月日/2019年10月1日 ■発行/独立行政法人国立病院機構千葉医療センター ■発行責任者/院長 齋藤幸雄 ■編集者/副院長 森嶋友一
〒260-8606 千葉市中央区椿森 4-1-2 Tel 043-251-5311 Fax 043-255-1675 <https://chiba.hosp.go.jp>

理念

信頼される医療を築く
Building Trust
私たちは、地域の方々に親しまれ、
信頼される医療を目指します。

基本方針

- ・ 患者さんをはじめ、センターに関わるすべての方々の人権を尊重し、相互信頼で成り立つ安全・安心な医療を目指します。
- ・ 地域の医療機関に信頼されるエビデンスに基づいた幅広くかつ専門性の高い急性期医療の構築を目指します。
- ・ 良質かつ最新の医療を提供するために教育・研究・研修・情報発信を推進し自己研鑽に努めます。以上の方針を継続的に実現する病院運営に努めます。



「花の名は？」（千葉県立青葉の森公園）

撮影：齋藤雅男（管理課長）



台風襲来

院長 齋藤幸雄

今季かつてない強風を伴う台風が千葉県を襲いました。千葉県は自然災害の少ない地域ですから予期せぬ被害に遭われた方々も多いと思います。被災された方々にはお見舞い申

上げます。県内各地で多発した大規模かつ復旧に時間を要する停電は、医療面でも大変な事態となりました。

幸い千葉医療センターでは病院機能には大きな問題が発生せず、災害拠点病院として組織的な活動を行う準備がされていたこともあり、電源喪失した病院の支援に貢献できたと思っています。情報収集や患者搬送に活躍したDMAT隊はもちろん全職員が協力して非常事態に当たりました。大規模地震対策はもちろんですが、今後は気候変動に伴い大型台風が千葉県に上陸する可能性もあり、十分な備えが必要と思われま

Yukihiko (目次)

着任挨拶 / 連携医院紹介	2
千葉医療センター地域医療連携の集い	3
緩和ケア病棟のご紹介	4
診療トピックス(75)	5
ANECOTA 一隠れた史実 (58)	6
がん患者サロンだより / 尺八演奏会を開催しました!	7
永年勤続表彰 / 大規模地震時医療活動訓練を終えて	8
千葉看護学校だより	9~10
市民健康セミナー / 専門外来・検査担当医師表 / 編集後記	11
外来診療担当医師表	12

主な行事予定

- 10/17 看護学校戴帽式
- 10/24 第193回市民健康セミナー
- 〃 看護学校推薦・社会人入学試験
- 11/28 第194回市民健康セミナー
- 12/26 第195回市民健康セミナー

着任挨拶



着任のご挨拶

呼吸器外科医長

千代 雅子

8月1日付けで呼吸器外科医長を拝命いたしました千代雅子と申します。平成30年4月1日に当院へ着任いたしました。その前は千葉大学医学部附属病院や千葉労災病院ほか千葉県下の病院で呼吸器外科医として勤務してまいりました。国立病院機構病院での勤務は今回がはじめてでしたが、医学生のところから千葉医療センターが千葉市あるいは千葉県にとって核となる病院の一つであることは認識しておりました。地域にとって必要と

される医療機関として、大切なこと、求められることは何かを常々考えて診療を行っており、今後も精一杯努力していきたいと思っております。

呼吸器外科は肺腫瘍と一部の肺の炎症性疾患や気胸、膿胸、縦隔腫瘍、が主な担当分野となります。日本社会は高齢化の一途であり、呼吸器疾患は全世界的に増加する一方、医療は高度高額になる一方です。その中で外科的処置が必要な方、可能な方は限られるかもしれませんが、逆にできることが全くないとも限りません。なにかございましたらぜひお声をかけていただければと存じます。今までも多くのご紹介とご相談をいただいておりますが、今後ともなにとぞよろしくお願いたします。

連携医院紹介

医療法人社団 慈愛会 K'sクリニックおゆみ野

千葉市緑区おゆみ野 3-41-15-1 2階
☎ 043-497-6022

平成31年2月より開院いたしました K'sクリニックおゆみ野でございます。JR鎌取駅より徒歩7分の地にあり、駐車場完備の診療所となります。建物二階に開院しており、一階には保育園があります。来院した際には、保育園の園児が元気に挨拶してくれることもあり、子供たちから元気をもらえたりもします。

当クリニックは、地域に根差した医療で安全で安心な治療の提供をモットーに内科、リハビリテーション科の診療を行っております。

診療では患者さんから症状をしっかりと聞き、診療方針なども納得いただけるまでご説明いたします。

内科では、地域の皆様のすこやかな毎日を応援するため、慢性の病気や生活習慣病などの予防にも力を注いでいきたいと思っておりますので、安心して気軽に受診いただければ幸いです。

リハビリテーション科ではドクターと柔道整復師、理学療法士にてレントゲン撮影や運動機能のテストを実施し症状を的確に理解し、診療方針を決定し、施術等の治療を行っております。また、リハビリテーショ



ン機器の他にランニングマシン等の運動機器も取り揃えておりますので、診療の待ち時間や、施術後の運動に機器を使用していただき運動不足の解消等のお役に立てればと思います。

当クリニックは、働いている患者さんが通いやすいようにと土曜日も平日と同様の19時まで開院しておりますので、お気軽に来院していただければと思います。今後ともよろしくお願いたします。

千葉医療センター地域医療連携の集い

専門職 笠原 正寛

9月19日(木)に三井ガーデンホテル千葉において、千葉医療センター地域連携の集いが当院主催のもと開催されました。

この会は、顔の見える地域医療を目的として、当院の主催としては初めての開催となりました。今回は千葉市医師会、近隣病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー等の地域医療連携に携わる方々を中心に85名と、千葉医療センターから37名の併せて122名の方々に参加を頂き盛会となりました。

第1部は当院の概況説明と、講演として当院の豊田康義がん診療部長と高野裕美子看護師長より緩和ケア病棟を開棟した旨のお話を頂きました。緩和ケア病棟の紹介や入棟基準、活動内容等について講演が行われました。当院の緩和ケア病棟を詳細に紹介することが出来たので、さらに地域連携を深めていきたいと思えます。

続いて、各診療科医長から体制や専門分野等の説明と、地域医療連携室職員の紹介を行いました。今後も地域の先生方から安心して患者さんを紹介して頂き、地域医療の貢献に繋げていきたいと思えます。

第2部の情報交換会では、参加頂いた近隣病院の先生方や看護師、ソーシャルワーカーの方々と率直な話をすることが出来、賑やかな情報交換会となりました。普段は診療情報提供書や電話でのやり取りが主なため、直接にお会いして話しをするのは初めての方々が多かったと思えます。お互いに診療や業務を行ううえで様々な質問やご意見・ご要望を頂戴する機会となり、とても有意義な会となりました。

今後もこのような会を引き続き開催して近隣の病院や開業医の皆様と地域医療連携を深めることで、地域住民の皆様のお役に立てるよう努めていきたいと思えます。今後ともよろしくお願いたします。



緩和ケア病棟のご紹介

緩和ケア病棟 看護師長
高野 裕美子

2019年3月に正式に千葉医療センター緩和ケア病棟としてオープンいたしました。

当院緩和ケア病棟は、多様化するがんの終末期医療の中で在宅医療とともにがん患者さんの最期の時を過ごす場所の一つとしての役割を担っていると考えております。

住み慣れた自宅で最期の時を迎えたいと考える人も多いと思いますが、医療的処置の必要性や家庭の事情などで自宅での療養が難しい人も少なくありません。また保険制度が変わっていく中で、急性期病院では長期療養が困難となっています。

当院の緩和ケア病棟は療養期間の目安を2か月前後と考え、①がんそのものに対する治療が困難となり、その事を患者さん自身もご存じである。②最期の時には人工呼吸器や心臓マッサージなどの延命処置を希望しないなどの諸条件をご理解いただいている患者さんが対象となります。入棟前には入棟前家族面談をさせていただき、面談の内容と事前にいただいた診療情報（紹介状）などから週1回行われる判定会議を経て、ご入院（入棟）いただけるか判断させていただきます。

入棟までの経過は、

- ① 当院の一般病棟にご入院中で面談後に緩和ケア病棟に転棟
- ② 他院に入院中でその病院の地域医療連携室からのご紹介で面談後に転院
- ③ 在宅訪問医を入れて在宅療養中の方が面談後登録患者となり、在宅訪問医から入院要請を受けて入院

という大きく分けて3つのパターンがあります。いずれもご依頼いただいた時のベッドの空き状況を調整して入棟日が決まります。またがん終末期の登録患者さんでご家族が介護に疲れてしまった場合、2週間を目途に一時的な入院をしていただくことができます。

病室は個室20床で構成されており、そのうち2床のみが8,800円の有料個室です。

（入棟基準・設備などについての詳細はパンフレットやHPをご覧ください。）

私たち看護師は、症状緩和の治療・ケアだけでなく、入院時から患者さん一人一人の日々の過ごし方についても相談させていただきます。

また毎朝、入浴や清拭、お散歩などの予定をご相談させていただきだけでなく、ほぼ毎月イベントを行っております。七夕の短冊作成やかき氷、出張花火映写会、カレンダー作りなどを実施。お誕生日の患者さんにはスタッフ手作り誕生日カードをプレゼント。その他、患者さんご家族にとって大切な時を過ごすためのお手伝いをさせていただきます。

医師・看護スタッフ一同「その人らしさ」を支える医療を目標に日々頑張っております。



診療トピックス ⑦⑤

血液内科のご紹介

2018年4月より血液内科外来を担当しております。

「血液内科」というと「血液循環ですか?」と聞かれることがありますが、血液の循環は循環器内科で扱う領域で、血液内科は主に血液細胞に異常をきたす疾患や、出血しやすい疾患を扱うところであるということを知って頂ければ幸いです。

血液細胞には白血球、赤血球、血小板があります。私たちの体の血液中を流れているこれらの血液細胞は成熟した大人の細胞です。大人の細胞になるシステムは大変巧妙に出来ています。その出発点は骨髄という血液細胞の造血工場で、腸骨や胸骨の骨の髄がその代表格です。骨髄には全ての血液細胞の元になる「造血幹細胞」が存在し、それがいろいろな種類の細胞となり、様々な因子の影響を受けて更に成熟した白血球や赤血球、そして血小板となり血液中に出て行くのです。

血液の細胞が異常になるとどのような症状が起こるのでしょうか?

① 白血球の異常

白血球は感染から体を守る細胞です。異常を来すと感染を起こし発熱しやすくなります。症状が出て受診される方もいますが、健康診断で白血球の数の増減を指摘されて受診される方もいます。熱がある時の血液検査や喫煙者でも白血球の上昇は見られますが、中には白血病やその類縁疾患、他の血液やアレルギー疾患などが隠れている場合もありますので、症状がなくても健康診断で異常を指摘された場合には受診して頂いた方がよいでしょう。

② 赤血球の異常

赤血球は体中の組織を回って酸素を運搬する細胞です。赤血球が多い多血症は様々な要因で起こり、のぼせやすくなります。少なくなった場合は倦怠感、頭痛、動悸、めまい、息切れなどの貧血症状が出やすくなります。貧血は主にヘモグロビンという赤血球中の赤い色素の量で判断します。日常診療で最も多いのは、ヘモグロビンの合成に必要な鉄分が足りない鉄欠乏性貧血です。消化管出血や婦人科・泌尿器科的な出血で鉄欠乏性貧血を来すこともあり、その場合は各科に紹介させていただきます。しかし実は、貧血の原因は多岐に渡り、赤血球の産生を刺激するホルモンの低下や、赤血球を破壊してしまう抗体という物質の産生による場合や骨髄で赤血球自体が作りにくくなっている場合もあります。大事なことは、安易に鉄剤を服用するのではなく、どんな貧血であるかを調

べ適切な治療を受けることです。貧血や多血症を指摘された場合は受診をお勧めします。

③ 血小板の異常

血小板は出血した場合に、その場所に集まって最初に血を止めてくれるものです。多くなった場合は血がどろどろします。少なくなった場合は、出血しやすくなり、紫斑や内出血が出来やすくなります。極度に低下した場合には、足のすねに点状出血という細かい出血ができる場合もあります。抗血小板薬や抗凝固薬(いわゆる「血をサラサラにする薬」)を服用している場合や、加齢により血管が弱くなったために出血しやすくなることもありますが、そのような原因がないにも関わらず出血しやすい場合や健康診断で異常値を指摘された場合は、なるべく早めに受診して頂くのがよいでしょう。



当科で扱う疾患には主に次のようなものがあります。

良性疾患：貧血全般、再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病、溶血性貧血、先天性及び後天性の出血性素因(血友病など)

良性疾患ではないもの(境界の病気～血液のがん)：

骨髄異形成症候群、白血病(急性及び慢性)、骨髄増殖性疾患(原発性骨髄繊維症、真性多血症、本態性血小板血症、慢性骨髄性白血病も含む)、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、原発性マクログロブリン血症など

近年一部の血液疾患は治療法が飛躍的に進歩し、高齢者に対する治療の選択肢も増えてきました。当院は高齢者が多いという特性がありますが、それでも十分に治療できる場合があり、治療に耐えうると判断された場合は積極的に治療させて頂いております。若年者における急性白血病など一部の疾患は移植治療を視野に入れる必要があります。そのような場合は限られた移植施設に紹介させて頂くこともあります。血液の病気は目に見えにくく理解しにくい領域ですが、患者さんなるべく理解できるような説明を心掛け、当院で出来る治療を提示しながら納得できる治療法を患者さんとともに選択していきたいと考えております。

(総合内科医長 上原 多恵子)

A N E C D O T A (58)

— 隠れた史実 —

元研究検査科長 高澤 博

ウィリスの治療活動は、明治3年1月1日(陽暦2月1日)開始された。現在ウィリス文書に残っている「治療目録書並員数病症——但從正月開診日到六月二十九日」によると、最初の六ヶ月間にウィリスが治療にあたった患者の数は、「外来患者三千五十人」、「外診患者百十人」、「入院患者四十六人」、総計三千二百六人であったという。単純に患者の数という点からみると、ウィリスは一日平均約十八人の患者を治療していたことになる。「入院患者四十六人」については、いっそう詳しい記録、「入院患者治療目録書——但鹿児島病院中、從四月二十日到六月二十九日入室の病者也」がのこっている。これで見ると、鹿児島病院が正式に入院患者の受け入れをはじめたのが、四月二十日(陽暦五月二十日)であったことがわかる。この二つの目録書には病名の記載があったが、萩原は、ここでは省略しており残念である。この二つの目録書は、いずれも七月十二日(陽暦八月八日)付けで作成されており、鹿児島での最初の六ヶ月間の、ウィリスの治療活動の一端を覗かせてくれる。

ウィリスが沈黙をやぶって、旧知のひとびとに私信をおくりはじめると、鹿児島に来てから約六ヶ月が経過した頃からである。いちおう鹿児島での生活にも慣れ、手紙を書く気持ちの上での余裕も出てきたのであろう。

アダムズのウィリスについての報告では、「主要な病気は、性病、眼病、癩病の三つのである。このうち、性病は、治療にあたった患者総数の四分の一以上を占め、これが急速にひろまったのは、鹿児島に帰還した兵士に原因があるとされている。」癩病の蔓延を防ぐために、住民の食生活に野菜に加えて動物性食物を取ることを藩庁に強く訴えてきた。はじめて牛が殺されたのは、ウィリスの到着以降のことである。殺し方に欠陥があるためと、肉屋で扱う肉類の品質がよくないために、鹿児島の住民の口に入る動物性食物は病気の原因になるような状態であった。そこでウィリスは藩庁を説得し、数名の男を横浜カービー商店に派遣し、動物の正しい殺し方を習わせた。因みに癩病の薬、文献を兄ジョージに問い合わせている。梅毒の場合はヨウ化カリが奏効したという。ウィリス自身持病として膝関節痛に悩まされ、横浜で開業している友人のシドルの診察をうけたところ、樟脳入りの水銀軟膏の湿布を勧められた。ウィリスは自身リウマチを疑っていたようです。

明治六年秋頃、ウィリスが鹿児島病院で使用するためにイギリスに発注した医薬品のリストが残っている。今回の発注は総額六百二十ドル、品目総数八十一、そして、それぞれの品目について、名称、分量、価格が記してある。リストには化学薬品と生薬があり、生薬の内から五品目を選んで紹介してある。麦角(子宮収縮剤)、甘草エキス(鎮咳剤)、コルヒチン根(痛風剤)、大黃(下剤)、セネガ根(鎮咳剤)など。この医薬品の発注と同日付で、病院で使用する外科用具の発注もおこなわれているが、総額七百二十ドルである。そのリストの中から、数品目を抜粋しておく。携帯用手術用具一式；十九

個、五百七十ドル、モルヒネ用注射器；十五個、四十五ドル、容量三百ccほどのゴム製浣腸器；二十個、二十ドル、眼科用小縫合針；三十六個、六ドル、厄介な尿道狭窄に使用する黒色ゴム製の柔軟性ブジー(蠅のブジーは日本人に向かない)；六ダース、二十五ドル、弾性ゴムのカテーテル；六ダース、二十五ドル、小型の腸線製ブジー；三ダース、六ドル。

ウィリスがこの註文リストをイギリスに送った直後、明治六年の政変で下野した西郷が鹿児島に戻った。

天皇との謁見のことは、約一年半ぶりでウィリス文書に姿を見せるウィリスの私信(明治五年七月)、長兄ジョージやその夫人ファニーに宛てた手紙の中で触れている。「すこし前に御門が当地(鹿児島)を訪れ、私も謁見を許されました。(中略)彼は顔付きはみにくいほうですが、物分りのよさそうな男です。ウィリスはまた「実によく働いています。朝の6時から授業を始め、夕方の6時ないし7時まで働くことがしょっちゅうです。」ともいい、ここで彼の勤務状況を参照されたい。

学校日(隔日)

英語文法 午前六時半—午前七時、第三読本 午前七時—午前七時半、地理 午前七時半—午前八時、英語会話 午前八時—午前八時半、薬物学 午前九時半—午前十時、医学講義 午前十時半—正午、解剖学 午後一時—午後二時半、第一読本 午後二時半—午後三時半、地理 午後三時半—午後四時、英語書取 午後四時—午後五時

病院日(隔日)

英語文法 午前六時半—午前七時、英語作文 午前七時—午前七時半、地理 午前七時半—午前八時、英語会話 午前八時—午前八時半、解剖学 午前八時半—午前九時半、病院回診と外来患者診察 午前九時半—正午、包帯、副木の使用など 午後一時—午後二時、診断、手術など 午後二時—午後三時半、英語会話 午後三時半—午後四時半、外診 午後四時半—午後七時

ウィリスが二年八ヶ月前に着任して以来、病院ないし自宅において、ウィリスおよび他の職員から治療をうけた患者の総数と、毎月の平均数。

入院患者 総数千八百名、毎月平均四十名

外来患者 総数七千三十六名、毎月平均二百二十名

外診患者 総数千九百二十、毎月平均六十名

病院が発足したのは、明治三年四月十九日(陽暦五月十九日)である。以上を合計すると、これまでに治療をうけた患者の数は一万三十六名に上る(文部省宛 1872年9月2日・明治五年七月三十日)。

この現状報告は、ウィリスが作り上げていた医学校と病院の体制を概括してくれる。

それを見て気づくのは、何よりも、午前6時半から午後5時ないし午後7時まで、英語や地理の手ほどきから医学の講義や実習まで、さらに病院での診察から外診までと、ひたすら働きつづけているウィリスの姿である。

がん患者サロンだより

働く人ががんになったとき (4)

社会環境

がん・肝炎・糖尿病などは、診断技術や治療技術が進歩してきていますので、病気が見つかったも、仕事と治療を両立することができるようになってきました。

厚生労働省は、治療しながら働き続けられるように、企業などが治療に対する配慮や適切な処置をする「治療と職業生活の両立支援」を推進しています。

具体的には、福利厚生制度の充実を支援したり、ハローワークを拠点とした積極的な就労支援を行っております。(ハローワーク千葉は、定期的に当院で出張相談を行っています。) 家計を支える、傷病手当金制度や、雇用保険、求職者支援制度、総合支援資金貸付、臨時特例つなぎ資金貸付制度などもあります。

治療しながらの家事・仕事・看病・介護・育児などは完璧にはこなせません。一人で抱え込まないで、頼れる親戚や職場・近所の方などに相談してください。

お住まいの自治体(都道府県や市町村)独自で、日常生活に必要な生活用品の購入補助や子育てなどの支援、相談窓口の開設などを行っている所もあります。

がん患者サロンや患者会などに参加して、他の方々の対応や工夫を聞くのも参考になります。

それぞれの制度の利用は、本人からの申し出が必要ですから、会社の人事労務の担当者や、各制度の相談窓口、病院のがん相談支援センターなどにお問い合わせください。

参考) がん情報サービス(国立がん研究センターHP)
厚生労働省「治療と仕事の両立について」など

患者サロンの話題から

各種制度を利用して

傷病手当金や就業規則について、「結婚して、生活しないと……。傷病手当金1年半。再発すると貰えなくなる」との男性。「(自分の会社の)就業規則は、休んでいる時は無給。健康保険も自分で払って。その後、抗がん剤やりながら仕事をしてきた。(身体がきつい時は)有給で休んだりしながら。きつかった」との方。また、「アルバイトしたくても、(すると)雇用保険もらえなくなる」や、「休職期間過ぎると、復職しますか、辞めますかと聞いて来た」との方も。

なかには、「今まで税金や社会保険料を払ってきたから、甘えるときは甘えてもいいかな」との方も。

がん患者サロンに参加して、皆さんと想いを分かち合っては如何でしょうか。世話人一同もがん体験者です。皆様のご参加をお待ちしております。(宗水)

がん患者サロン シャント発声交流会開催案内

日時：毎月第4金曜日 13:30～16:00

10月25日(金) 11月22日(金)

12月20日(金) *12月は第3金曜です

2020年1月24日(金)

場所：千葉医療センター内会議室

(当日、道順案内を掲示します)

対象：主としてがん体験者及び、そのご家族です。
どちらの医療機関に掛かっておられても参加できます。

(予約不要、参加費は無料です)

問い合わせ：TEL 043-251-5311(代表)

(企画課医事 高橋)

尺八演奏会を開催しました!

9月26日、日本尺八連盟会長並びにドルチェ邦楽合奏団理事長の「坂田誠山(さかたせいざん)」先生をお招きして、尺八演奏会を開催しました。

坂田先生は、当院で8年前に片肺を切除している患者さんで、斎藤院長とはそれからのご縁ということでした。

院長就任のお祝いもかねて、坂田先生より尺八演奏会を開催したいとの申し出をいただき、今回の演奏会が実現しました。

当日は患者さん、ご家族、職員を含めて100人ちかくの方が、尺八と箏(こと)による二重奏曲の美しい音色に酔いしれました。

多忙の中、演奏していただいた坂田先生を始め、開催



にあたり協力いただいた関係者の皆さまにこの場を借りて御礼申し上げます。(管理課 渡邊 孝)

永年勤続表彰

平成31年4月22日(月)に、永年勤続表彰伝達式が行われました。

斎藤院長より、永年に亘り国立病院機構の医療向上及び千葉医療センターの充実・強化にご尽力されてきた方々に、30年勤続及び20年勤続の表彰状と記念品が授与されました。

前年の授章者は14名でしたが、今年度は前年を上回る21名の方が授章されました。今後も引き続き当院の病院運営にお力添えをお願い申し上げます。(管理課)



30年表彰 8名

30年表彰 8名 (敬称略)	薬剤部長	大塚 知信
	看護師長(感染管理)	三沢 美知代
	5 西看護師長	金作 睦子
	5 西副看護師長	金子 啓子
	8 階看護師	蒲池 由紀子
	8 階看護師	三上 美和子
20年表彰 13名 (敬称略)	看護学校教員	柳川 千恵美
	看護学校教員	鳥海 美穂子
	医療情報管理部長	中里 毅
	教育研修室長	阿部 朝美
	脳神経外科医長	尾崎 裕昭
	関節外科センター長	阿部 功
	副看護師長	藤咲 美輝
	看護師長(教育担当)	野地 志穂
	救急看護師	山口 幸子
	救急看護師	鈴木 友子
	4 西看護師	鶴岡 加奈子
	8 階看護師	矢杉 由理
	手術室看護師	小瓶 智美
外来看護師	横田 あおい	
外来看護師	横田 綾香	



20年表彰 13名

大規模地震時医療活動訓練を終えて

看護部 日本DMAT隊員
末廣 賢一郎

去る令和元年9月7日に、大規模地震時医療活動訓練が行われました。

この訓練は内閣府の主催で、日本を5つのブロックに分け、各ブロック持ち回りで毎年行われており、今年も関東ブロックが主幹となり首都直下型地震が発生し、当院も被災しているという想定で行われました。

災害時、特に被災地域内では情報の伝達方法が遮断され、各施設が孤立してしまうという状況が起こりやすくなります。また電気、水、医療ガス、医薬品、食料等病院を運営していくうえで重要な資源の供給は止まり、一方で傷病者は多数運ばれてくるという状況が重なると、一施設単独で医療を提供することは困難です。

今回の訓練では、衛星電話を使用し情報伝達方法を確立し、地域毎に活動拠点本部を設け地域の組織化を行い、医薬品等資源の要請・供給方法の確認、施設間の患者搬送や被災地域外へ搬送するという訓練を行いました。

全国からDMATが参集し医療支援を行います。当院にも広島県と茨城県のDMATが支援に来てくれました。

当院は活動拠点本部との情報交換や院内の状況を把握するための災害対策本部と、看護学生を傷病者に見立てた診療エリアの一部を実動訓練で行い、支援に来てくれたDMATの受入れ体制の検証を目標として訓練に参加しました。

実際に人が動く、病院間のやり取りをする貴重な訓練であり、課題は山積していますが、実災害で生かせるよう精進していきます。



小・中学生対象 公開講座

～看護学生になって病院探検をしてみよう！～

看護学校 教員 千葉 章子

「看護学生になって病院探検をしてみよう！」というテーマで、小・中学生を対象とした公開講座を開催いたしました。この公開講座の目的は、看護師体験や病院の見学を通して医療・看護への興味・関心を高め、将来の進路や職業選択を考える機会になればと考え毎年企画しております。

7月29日(月)は中学生を対象に13名が参加、翌30日には小学5・6年生を対象に25名の参加がありました。

今年度のねらいは、生命の尊さを学ぶとともに、病院で働く人たちの姿を見ることで命を支える仕事について考える機会となるよう企画しました。内容としては白衣を着用して、病院内の主な部門の見学を行いました。小児科・産婦人科病棟での見学、薬剤部では治療の要となる処方薬の調剤の見学、理学療法室でのリハビリテーションを見学し、それぞれの部署で担当者から説明を受けました。そして最後に救急車の乗車体験を行いました。

た。看護学校では、シミュレーターを使った妊婦体験、沐浴体験、赤ちゃんの心臓の音を聴診器で聴きました。

最後のまとめとして、教員より「看護の仕事とは」「看護師への道」「コミュニケーションの大切さ」についての模擬授業を行いました。

参加者の感想として、「妊婦体験を通して自分の母親の大変さを知った」「人の命を預かって一緒に歩むことのできる看護師の仕事はとてもやりがいのあるすごい職業だと思った」「看護師がいろいろなところで重要な役割をしていると知った」「病院で働く人の仕事をたくさん知ることができた」などの感想が寄せられました。

この公開講座を通して、医療や看護への興味や関心を持つ機会となっていれば大変うれしく思います。ご多用の中、公開講座に参加いただいた方、開催にご尽力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。



薬剤師より、薬の説明を聞いています。(中学生)



リハビリ室の見学(小学生)



救急車内のいろいろな設備に興味津々(小学生)



新生児室をガラス越しに見学「赤ちゃんかわいい～」



ポスター



生まれたばかりの赤ちゃんのケアの見学



ベビーモデルで心音を聴いています



沐浴体験

第52回 椿森祭を開催して

椿森祭 実行委員長 66期生 若梅優里
副実行委員長 66期生 椛島綾乃

去る9月21日の土曜日に「令和～新時代へと繋ぐ看護」というテーマのもと、第52回椿森祭を開催いたしました。このテーマのねらいは、平成から令和へと元号が変わる中、私たちが先輩から受け継いできた看護を新たな時代の令和へと繋いでいくことは重要なことだと考え決定しました。また「和」には相手を大切にするという意味もあります。私たち看護師を目指す者が「和」を大切に患者さんに看護を提供していきたいという願いも込められています。

今回の椿森祭では交流・体験・イベントと様々な催しを企画しました。椿森祭に訪れる地域の方々との交流を目的に、縁日やバザー、パンや飲み物の軽食の販売を行いました。また、千葉県のマスコットキャラクターである「チーバくん」と千葉市のシンボルキャラクターの「ちはなちゃん」が登場し、来場された多くの方が記念写真を撮ったり、触れ合ったりと大盛況となりました。その他に体験コーナーでは、「看護をつなぐ」を意識して、手浴や沐浴などの看護体験ブースを設け、来場者に実際に体験していただきました。また救急処置ブースではAEDの使い方や心臓マッサージなどの体験だけでなく、9月上旬に千葉県に甚大な被害をもたらした台風15号を教訓に、災害対策について学習した結果の展示を行いました。さらにイベントコーナーでは、超高齢化社会の課題でもある認知症の予防体操を訪れた方々と一緒に行いました。また学生有志によるダンスやバンド演奏などのパフォーマンスも行いました。

椿森祭の開催までには、企画や予算立て、広報、具体的な計画や準備、練習など日々の学業と並行して行ってきたため苦労も多かったですが、これらの企画準備を通して創造する力や皆で協力し合うことの大切さを学びました。そして私たちの日ごろの学習成果を発表する



とともに、地域の方々との交流の場になれたことをとてもうれしく思っています。ご参加いただいた皆さんの笑顔や「楽しかったよ」というお声をいただくことで、やりがいや達成感も味わうことができました。本当にありがとうございました。

今回の椿森祭の開催にあたり、ご協力いただきました関係各位にはこの場を借りてお礼と感謝を申し上げます。また、バザーの収益や募金につきましては、台風15号千葉県災害義援金として、被災された方々のお力になれるよう役立てていきたいと思っております。



市民健康セミナーの開催

当院では千葉市民の皆様へ健全な生活を営んで頂くために、少しでもそのお手伝いができればと考え、8月を除く毎月「市民健康セミナー」を当院地域医療研修センターで開催しております。

7月～9月に行われたセミナー

7月25日(木)

「腰痛について」

講師：整形外科 林 浩一

9月26日(木)

「緩和ケアご存知ですか
～痛みを取り除く薬のこと～」

講師：薬剤部 鈴木博晃

今後の予定

第4木曜日 午後2時から4時
会場：当院地域医療研修センター

■10月24日(木)

「冬期感染症に備えて
～インフルエンザと感染性胃腸炎の対策～」

講師：感染管理係長、感染管理認定看護師 三沢 美知代

■11月28日(木)

「性感染症のお話」

講師：産婦人科 木嶋 由理子

■12月26日(木)

「形成外科でできること」

講師：形成外科医長 鈴木 文子

セミナーに10回参加された方には記念品をさしあげます。

(お問い合わせ先 管理課)

専門外来担当医師表

診療科	月	火	水	木	金
和漢診療科			永井千草 8:30～13:00 予約制		
肝胆脾外来・消化器内視鏡外来(内科)	[交替医] 14:00～15:00 紹介制・予約制	[交替医] 14:00～15:00 紹介制・予約制	[交替医] 14:00～15:00 紹介制・予約制	[交替医] 14:00～15:00 紹介制・予約制	[交替医] 14:00～15:00 紹介制・予約制
不整脈外来(循環器内科)			中野正博(第2・4水曜日) 14:00～16:30 完全予約制		
腎内科(内科)		今澤俊之 (第1・第3火曜日)13:00～16:00	上田志朗 (第2・4水曜日)8:30～11:00		
外科・消化器外科(外科)		[交替医] 13:00～15:00 紹介制・予約制			[交替医] 13:00～15:00 紹介制・予約制
大腸癌外来(外科)				里見大介 (初診・再診)12:30～15:00	
胆石外来(外科)			榊原 舞 (初診・再診)13:00～15:00 (再診のみ)15:00～16:00		
股・膝関節外来(外科)			阿部 功(股関節) 14:00～15:30 紹介制・予約制	白井周史(膝関節) 13:30～15:00 紹介制・予約制	
ヘルニア専門外来(外科)				山本海介 13:00～15:00	
緩和ケア外来(外科)		豊田康義 手渡(認定看護師) 13:30～15:30 予約制	豊田康義 手渡(認定看護師) 9:30～11:00 予約制		
ストーマ外来(外科)					谷(認定看護師) 9:00～12:00 予約制
禁煙外来(外科)			守正浩<第1・2・3・5水曜日> 13:00～ 予約制	守正浩 13:00～ 予約制	
肛門外来(外科)	守正浩 14:00～16:00 予約制		守正浩<第1・2・3・5水曜日> 14:00～16:00 予約制	守正浩 14:00～16:00 予約制	
助産師外来(産婦人科)		<予約制>午後		<予約制>午前・午後	
母乳外来(産婦人科)	<予約制>午後2枠		<予約制>午後2枠		<予約制>午後2枠
性カウンセリング(産婦人科)				大川玲子 8:30～17:00 予約制	

検査担当医師表

診療科	月	火	水	木	金
胃内視鏡検査 (午前)	金田/西村(光)	田村 玲	齊藤(正)/芳賀	阿部(朝)/宮村	伊藤 健治
	里見大介		里見/土岐	福富 聡	
大腸ファイバー(午後)	内科交替医	外科交替医	外科交替医	外科交替医	内科交替医
超音波	腹部	芳賀祐規	阿部朝美	田村/西村(光)	伊藤 健治
	心臓				山田善重 <第2・4木曜日>午前 高見 徹

編集後記

この度の台風15号の被害により、停電や断水などの被害にあわれた皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。幸いにも当院のある椿森は、停電や断水などがなく、平常どおり診療を続けることができました。今号の表紙の写真を撮るために青葉の森公園に行ってきましたが、園内中いたるところで倒木があり、根元から倒れて切断された木やまだ切断処理が済んでいない木が普段は芝生広場となっていて置かれているなど、改めて今回の台風の威力の凄さや被害の大きさを感じました。
(M.S)

【編集委員名簿】

(編集長 森嶋友一)
(副編集長 船木新悦)
(重田みどり)(齋藤雅男)
(神長雅浩)(久保慶宜)
(藤咲美輝)(大橋義弘)
(佐藤厚子)

令和元年10月1日から 外来診療担当医師表 原則として、受付時間は平日の8:30~11:30

診療科		月	火	水	木	金	
内科	新患	[交替医]	[交替医]	[交替医]	金田 暁	齊藤正明	
		齊藤正明	齊藤正明	[交替医]	田村 玲	岡澤哲也	
				森 泰子			
	再診	呼吸器内科 <small>新患は紹介制</small>	丸岡美貴	西村大樹	江渡秀紀	丸岡美貴	江渡秀紀
			安田直史	高木賢人	野口直子	西村大樹	安田直史
消化器内科 <small>(消化管、肝、胆、脾)</small>		伊藤健治	金田 暁	伊藤健治	篠崎勇介	阿部朝美	
	血液内科	田村 玲	宮村達雄	阿部朝美	西村光司	[交替医]	
		杉浦信之	芳賀祐規				
糖尿病代謝内科 <small>新患は紹介制</small>		島田典生	石塚伸子	島田典生	後藤茂正	上原多恵子	
脳神経内科 (旧: 神経内科) <small>新患は紹介制・予約制</small>		織田史子	古本英晴		岡澤哲也	島田典生	
精神・神経科 <small>新患は予約制 (月・木・金)</small>		海宝美和子	岡田祐輝	海宝美和子	清原雅生	楠戸恵介	
		岡田祐輝 (新患のみ)	坂本太郎	岡田祐輝			
循環器内科 <small>月曜日は予約制 受付は10時まで</small>		高見 徹 <予約制>	住田有弘	梶山貴嗣	高見 徹	中里 毅	
					青木薫子		
小児科		重田みどり	鈴木裕子	重田みどり	重田みどり	渡邊博子	
外科・消化器外科		森嶋友一	利光靖子	豊田康義 (緩和ケア)	里見大介	[交替医]	
		福富 聡		土岐朋子	野村 悟		
		榊原 舞	[交替医]	山本海介	小倉皓一郎		
		守 正浩		石毛孔明			
乳腺外科 <small>紹介制・予約制</small>		鈴木正人	鈴木正人	手術日	鈴木正人	鈴木正人	
		中野茂治	中野茂治		中野茂治	中野茂治	
整形外科 <small>火・金の受付は10時まで</small>		大河昭彦	[交替医]	大河昭彦	村上宏宇	[交替医]	
		阿部 功		阿部 功	白井周史	手術日	
		村上宏宇	手術日	林 浩一	林 浩一		
		白井周史		菱谷崇寿	菱谷崇寿		
形成外科		手術日	鈴木文子	手術日	鈴木文子		鈴木文子
			富永真以		富永真以	富永真以	
脳神経外科 <small>新患は紹介制・予約制のみ 再診は火曜日・金曜日予約制</small>			丹野裕和		手術日	尾崎裕昭	
						大石博通	
呼吸器外科		斎藤幸雄	手術日	斎藤幸雄	千代雅子	千代雅子	
		手術日			伊藤貴正	手術日	
心臓血管外科		手術日	鬼頭浩之 <予約制>	平野雅生	手術日	[交替医]	
皮膚科 <small>月・火の受付は10時半まで</small>		秋田 文	秋田 文	大久保倫代	角田寿之 <予約制>	大久保倫代	
		橋本啓代	橋本啓代	秋田 文		橋本啓代	
泌尿器科 <small>新患は紹介制 (月・火・木・金) 金曜の受付は10時まで</small>		一色真造	櫻山由利	手術日	櫻山由利	[交替医]	
		櫻山由利	一色真造		川名庸子	川名庸子	
		川名庸子	加藤洋人		加藤洋人	加藤洋人	
		宮内武弥					
産婦人科 <small>婦人科新患受付は月・水・金(紹介制) 産科新患受付は月・水・金</small>		黒田香織	<予約制>	岡嶋祐子	<予約制>	岡嶋祐子	
		田淵彩里		片山恵里		木嶋由理子	
		鉄林諭慧 (産)	黒田香織 (産)	木嶋/田淵 (産)		片山恵里 (産)	
眼 科 <small>新患は紹介制 再診は予約制 受付は10時まで</small>		新井みゆき	新井みゆき	新井みゆき	手術日 外来注射日	岡田恭子	
		岡田恭子	岡田恭子	岡田恭子		櫻井まどか	
		櫻井まどか	櫻井まどか	櫻井まどか		山岸 梓	
		山岸 梓	山岸 梓	山岸 梓		安藤貴章	
		手術日(午後)	手術日(午後)	手術日(午後)			
頭頸部外科・耳鼻咽喉科 <small>新患は紹介制 再診は予約制 火・水の受付は10時まで</small>		渋谷真理子	渋谷真理子	[交替医]	手術日	鈴木 誉	
		坂本夏海	鈴木 誉	*新患のみ		坂本夏海	
		新見理恵		手術日		新見理恵	
放射線科 治療		酒井光弘 <予約制>		酒井光弘 <予約制>		酒井光弘 <予約制>	
歯科口腔外科 <small>新患は紹介制 再診は予約制</small>		中津留 誠	中津留 誠	中津留 誠	嶋田 健	中津留 誠	
		嶋田 健	嶋田 健	嶋田 健	高原利和	嶋田 健	
		高原利和	高原利和	高原利和	高原利和	高原利和	
病理診断科		<完全予約制 (月~金)>					

※専門外来・検査担当表は11ページに掲載しています。